

楽しく学びがいのある小学校英語学習 —他教科や領域との合科的な指導の工夫を通して—

岩崎夏子

平成28年8月1日、2020年から小中高校で順次始まる次期学習指導要領について、文部科学省の諮問機関「中央教育審議会」が審議まとめ案を公表した。そこで注目されたのは、小学校5、6年生の英語が「外国語活動」から「英語科」に格上げされ、年間の授業時数は70コマ分に倍増すること、そして小学校3、4年生でも年間35コマの「外国語活動」が始まるというものだ。今後ますます日本の小学校における英語教育が注目されることになるだろう。英語の教師を目指す者として、これからの小学校での英語教育がより充実したものになるように楽しく学びがいのある授業について考えていきたい。

1. はじめに

(1)目的

「次期学習指導要領」における「小学校の外国語教育の改善・充実」において注目すべき点が4点あった。まず1点目は、小学校では児童の英語への高い学習意欲が見られるということである。2点目は、身近なことに関する基本的な表現が効果的であるということである。3点目は、体験的な学習が重要であることである。4点目は、小学校でのコミュニケーション活動の充実が中学校での英語科学習の積極性や主体性の向上につながるということである。以上のことから、私は、児童の英語への高い学習意欲を生かし、児童に身近な題材を用いて体験的な学習をしていくことで、英語でコミュニケーションをとることの楽しさを伝えたいと考えた。そして、英語でコミュニケーションをとることの楽しさを伝えることが、子どもたちが中学生・高校生になったとき「いろいろな表現を学習して、もっと幅広くコミュニケーションをとれるようにしたい！」と英語科学習へのモチベーションにつながると思った。

(2)内容

子どもたちに英語でコミュニケーションをとることの楽しさを伝えることができる、楽しくて学びがいのある授業を考える中で、小学校学習指導要領総則「第4 指導計画の作成等にあって配慮すべき事項(4)」に注目した。「児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、合科的・関連的な指導を進めること」というものだ。合科的な学習とは、各教科のねらいを達成しやすくするために、複数の教科の内容を合わせて指導することを指す。そこで私は「外国語活動」「英語科」の学習と「他教科」の学習を融合した授業に焦点をあてて、考えていきたい。

(3)構成

小学校3年生から6年生において、4つのパターンを考えた。

- a. 小学校3年生 「算数」＋「英語活動」
- b. 小学校4年生 「国語」＋「英語活動」
- c. 小学校5年生 「家庭科」＋「英語科」
- d. 小学校6年生 「総合的な学習の時間」＋「英語科」

2. 楽しく学びがいのある私の授業案

(1)英語活動が始まるどきどき3年生！ 「英語活動」プラス「算数」

題材名「英語を使って買い物をしよう(大きい数の計算をしよう)」

3年生の「大きい数の計算(3桁以上のたし算やひき算)」では、教科書に「ケーキ屋に買い物に行く」という場面の問題が出されている。そのときの学習に「英語活動」を一緒に取り入れる。問題は「365円のアップルパイと472円のケーキを買うときの代金はいくらか」「315円持っていて194円のプリンを買うといくら残るか」といったものである。ケーキ屋の店員さん役をALTの先生に協力してもらい、英語での数字の表し方、英語表現“*How much?*”などを用いながら、体験的に行う。

(例) 365円のアップルパイと、472円のケーキを買います。代金はいくらですか。

児童： Hello!

ALT： Hello!

児童： Apple pie and this cake please.

ALT： Sure. Apple pie is 365 yen. This cake is 472 yen.

児童： Ok. Here you are. (代金を計算してALTに渡す)

ALT： Thank you. Have a good day!

児童： You, too.



こうしたシチュエーションは「かけ算」などでも出てくる。ALTの先生に協力してもらってこうした活動を行い、英語に親しみ楽しみながら算数の学習を行っていく。

(2)英語活動2年目わくわく4年生！ 「国語科」＋「英語活動」

題材名「好きな詩をALTに紹介しよう」

光村図書の国語の教科書4年下には、「のはらうた」が教材として採り入れられている。そこでは「野原の仲間になって」という「書くこと」の内容も採り入れられている。日本語で書いた短い詩をALTの先生に英文に訳してもらおうと子どもたちはとても喜ぶだろう。そこでALTの先生に協力してもらい、子どもたちが書いた詩を訳してもらおう。そして子どもたちは、野原の仲間になりきって体を動かすなど、楽しみながら英語の詩を表現する。

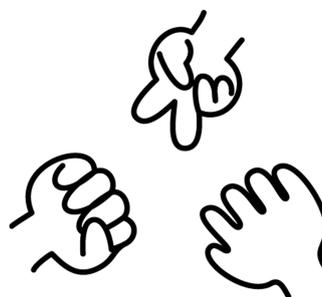
(例) じゃんけんぽん さわがによしお

「じゃんけんぽん！」
グー、グー、
チョキ
ぼくは、いつもまけるのさ
なんでだろう
そうか、
ぼくはチョキしかだせないんだ



Rock, paper, scissors by Yoshio Sawagani

Rock, paper, scissors, one two three!
Rock, rock,
Scissors
I'm always a loser.
Why?
Oh,
I can show scissors only.



5. 6年生では「聞くこと」「話すこと」に加えて、初歩的な「読むこと」「書くこと」にも慣れ親しむ。そして英語の文字や英語の語順についても認識する。

(3)英語科スタートのびのび5年生！ 「英語科」+「家庭科」

題材名「まかせてね今日の食事（英語でレシピを作ってみよう）」

東京書籍の家庭科の教科書では「家族が喜ぶ食事を作ろう」として、献立を立てたり調理したり、子どもたちが楽しい食事を計画する。おかずの例としては「ゆで野菜のサラダ」「ジャーマンポテト」などが挙げられている。「話し合い活動」や「メモ」などを活用して子どもたちが考えた献立をもとに、ALTの先生や地域の方々に協力してもらい、英語でレシピを作る活動を行う。

(例) ジャーマンポテト

- ① 群馬県産じゃがいも (140g)
…皮をむき、5mm くらいのうす切りにして、ゆでておく。
- ② ベーコン (1枚) …はば1cm に切る。
たまねぎ(25g) …3～5mm のうす切りにする。
- ③ ②を油 (5ml) でよくいため、①のじゃがいもとパセリ (少し) をいため合わせ、塩、こしょうで味をととのえる。

German Potato

- I Potato, produced in Gunma (140g)
…Peel potatoes. Cut into 5mm. Boil the potato.
- II Bacon (1) …Cut into 1 cm.
Onion (25g) …Cut into 3~5 mm.
- III fry II in oil. Add I and parsley. Add salt and pepper.



(4)小学校英語最後それいけ6年生！ 「英語科」+「総合的な学習の時間」

題材名「地域紹介をしよう！～広めよう、私たちのふるさと～」

6年生の総合的な学習の時間において、外国の人たちに自分の住んでいる地域について紹介する。地域紹介する際に必要となる語彙などを学習し、今まで習った表現をもとに、グループごとにプレゼンテーションを行う。

(例)るなばあくを紹介するグループ

Look at this! This is Luna-park.
Our town, Otemachi has Luna park.
This is the cheapest amusement park in Japan.
One ride, only 50 yen!
Many children like Luna-park.
Look! We can drive a mini car.
We can eat icecream.
We can enjoy it very much!
Please go there!



3. まとめ

私には、「子どもたちに英語でコミュニケーションをとる楽しさを伝えたい!」という夢がある。その夢を叶えるために、大学において教育学部で英語を専攻している。英語が開始される小学校において、英語でコミュニケーションをとる楽しさを伝え、英語への興味関心を惹くことは、中学校・高等学校での英語学習への意欲にもつながるとも大切なことであろう。「合科的な学習」によって「外国語活動」や「英語科」の学習を他教科や領域の学習と関連させて、より充実させることは、英語や他教科への興味関心につなげることができる。外国語活動が開始される小学校3年生では、「買い物をしよう」という子どもたちの生活に身近な場面において、ALT とコミュニケーションをとりながら英語や算数の学習を行う。簡単な英語表現を用いて ALT と楽しくコミュニケーションをとることで、「英語って楽しい! これからの英語の授業が楽しみ!」といった子どもたちの英語学習へのモチベーションを育てたい。小学校4、5年生では「好きな詩を ALT に紹介しよう」「まかせてね今日の食事」という題材において活動する。ALT や地域の方々の協力を得ながら、自分たちで考えた詩やレシピを英語で表現してみることで、将来的に自分の考えや気持ちを自信をもって英語で表現することのできる子どもたちを育てたい。小学校6年生では、小学校英語の集大成として「地域紹介をしよう～広めよう、私たちのふるさと～」という活動を行う。自分たちのふるさとについて英語で表現できるようになることで、将来的に「私のふるさとはこんなところなんだ!」と世界中の人たちに、自分たちのふるさとの魅力を世界に発信できる子どもたちを育てたい。私は、将来英語教師として、このような他教科や領域との合科的な指導の工夫を通して、「英語楽しい!」「英語大好き!」と子ども1人1人の楽しそうな声が教室から聞こえてくるような授業を展開したい。そして授業を通して、子どもたちに「英語でコミュニケーションをとることの楽しさ」を伝えていきたい。

<参考・引用文献>

東京書籍 「新しい算数 3年上」

工藤直子 「のはらうた」童話屋

William. I. Elliott 「英語・のはらうた」童話屋

倉光信一郎 「変身『のはらのみんな』」

(<http://www.chukai.ne.jp/~kurashin/noharauta.html> 2016.10.11 確認)

光村図書 「小学校国語 4年上」

東京書籍 「新しい家庭科 5・6」